

慈明院寺報四月号

春のお彼岸参りについて

毒矢のたとえ

冬が過ぎ、春の日差しが感じられるこの頃、境内の梅も満開である。四月

八日は花まつり、お釈迦様の誕生日をお祝いする。お釈迦様は、紀元前五世紀
くらいに実在した人間である。その生涯で様々な説法を行い、後の世に生きる
人々に仏教という道しるべを残された。

そのお釈迦様の弟子に、マールンクヤという男がいた。彼は「この世が永遠
か無限か」「死後は存在するのか」といった難題を、頭でばかり考えて悩んで
いた。そしてある時、お釈迦様に直談判して死後の世界について質問した。

お釈迦様は静かにこう諭した。「ある男が、どこからか飛んできた毒矢に射ら
れた。ところが矢の刺さった男は、矢を射た者の名前と年齢、素性、矢と毒の
材質や材料が全てわかるまで、この矢を抜いてはならないと言つて、矢を抜き
手当するのを拒んだ。そして男は毒がまわつて死んでしまった。」

「死後を知ろうとしても、現世で修めるべき事をおろそかにしては、何も
得られず死んでしまうだけである。やらなければならぬのは、今現在に
おいて怠る事無く修行を実践して、成就させる事である。」

お釈迦様は「死後の世界」や「宇宙の果ての有無」などの質問に、一切応じ
る事は無く、沈黙（無記）を貫いた。わかるはずのない事をあれこれと考える
のは、根本的な生きる苦しみを解決する為に「いま」成すべき事でないと考
えたのである。今日一日やるべき事を地道に積み重ねて、あふれすぎる情報に
心が振り回されないように生きていきたいと思う。



本年は通常通り、三月十八日より春のお彼岸参りをお勧めさせて頂きます。
各檀家様には、すでに「お彼岸参り」のお知らせを送付させて頂いております。
お忙しい時期とは存じますが、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

隨時、お参りについてのお問い合わせ、変更など承ります。 住職 九拝

花まつり 自由参拝のご案内

令和四年 四月一日（金）～四月八日（金）

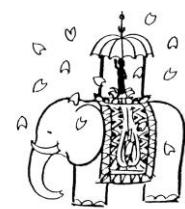
朝九時～夕方五時位迄

花御堂に誕生仏（お釈迦様）を安置して、甘茶をそいでご供養致します。

甘茶、お楽しみ袋（お菓子詰め合わせ）をお接待致します。花御堂の
お釈迦様は大師堂に安置しております。大師堂へお参り下さい。どうぞ
お誘い合わせの上、お参り下さいませ。（別紙参照）

住職の独り言

愛知県で働いている弟から電話があつた。遠方に住んでいるしコロナの事も
あつてしまらしく会つていらない。久々の電話で何事かと思つたら、母が夢枕に
立つたらしく心配して電話したそうだ。お袋さんは俺より元気ですよ（笑）



慈明院（〒八一一一三一 福岡市早良区大字西二三四一-一〇〇）
TEL（〇九二）八〇四一四五七〇 FAX（〇九二）八〇四一四六〇五
住職・吉住大慈 携帯電話〇九〇一（五二八一）一七四九四
よしずみだいじ